

※本奨学金は【直接応募】です。財団ホームページ(<https://www.aisf.or.jp/jp/>)より申込書等をダウンロードし、ご自身で直接応募してください。

公益財団法人渥美国際交流財団

2027 年度奨学生募集要項

渥美国際交流財団は、奨学金受給期間に日本の関東地方または近畿地方に居住し、
関東地方または近畿地方の大学院博士課程に在籍する留学生および日本人学生を対象に、
2027 年度奨学生を下記の要項に従って募集します。

(1) 応募資格（下記の資格すべてに該当すること）

1. 日本の大学院博士課程に在籍し、当財団の奨学金支給期間に博士号を取得する見込みのある方。正規在籍年限を超えたために、あるいは、海外の大学院より博士号を取得するために、研究員等として日本の大学院に在籍する方も含みます。
2. 渥美奨学金の受給期間に、所属する大学院研究科（研究室）と居住地が、関東地方（東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県・茨城県・栃木県・群馬県）または近畿地方（大阪府・京都府・兵庫県・滋賀県・奈良県・和歌山県・三重県）にある方。
3. 国際理解と親善に関心を持ち、当財団の交流活動（下記参照）に積極的に参加する意思のある方。
4. 日本語が堪能な方（応募書類と面接は全て日本語だけです）。日本人は外国語能力が高いことが望ましいですが、条件ではありません。
5. 渥美奨学金の受給期間に、正規の職（常勤職）に就いたり、他の奨学金を受ける予定のない方。
（当財団は常勤職の方の受給、および月額 10 万円以上の他の奨学金との重複受給は認めません。）

(2) 交流活動

1. 当財団は、毎月の例会で学業や生活について報告していただいた上で、奨学金を支給します。尚、例会等に参加するための交通費は支給しませんので、予めご了承ください。ただし、居住する地方外で例会が開催される場合は、交通費を支給する場合があります。（例：近畿地方在住の奨学生が関東地方で開催される例会に参加する場合）
2. 毎年数回奨学生全員（元奨学生を含む）と当財団の理事・評議員ならびに選考委員を招き、親睦会を開催します。夏には小旅行へ招待します。毎年 2 回研究報告会を開催し、対象年度の奨学生に研究成果を発表していただきます。

3. 渥美奨学生は、自動的に同窓会＜ラクーン会＞、及びラクーン会会員が中心となって運営している国際的かつ学際的な研究者ネットワーク＜関口グローバル研究会（SGRA）＞に入会し、活動に協力していただきます（<http://www.aisf.or.jp/sgra/> 参照）。また、SGRA が主催するアジア未来会議の参加費を補助します（<http://www.aisf.or.jp/AFC/> 参照）。

（３）奨学金の詳細

1. 奨学金は月額 25 万円です。2027 年度は 18 名程度採用する予定です。但し、同じ出身国/地域からの奨学生は 5 名を上限とします。海外の大学院より博士号を取得するために日本で研究する方で、応募時に海外在住で奨学期間のみ日本へ留学する場合は航空券代を補助します。
2. 奨学金の支給期間は、2027 年 4 月～2028 年 3 月、または 2027 年 9 月～2028 年 8 月の 1 年間で継続は認められません。開始月については相談に応じます。
3. 次のいずれかに該当すると認められた場合は、奨学金の支給を停止します。
 - a. 在籍する大学院の学籍を失った時。
 - b. 病気その他の事由により修学または研究を継続する見込みがない時。
 - c. 指導教官から修学または研究の継続が不適格と認められた時。
 - d. 倫理に反する行為が認められた時。
 - e. 奨学金申込書類に虚偽が認められた時。
 - f. 正規の就職が決まった時。
 - g. 当財団応募資格である交流事業に参加する意思がないと認められた時。
（例：複数回連続して月例会に不参加）
 - h. 当財団が奨学金支給の継続を不適当と認めた時。

（４）募集方法

1. 奨学金希望者は、2026 年 7 月以降、各大学院の奨学金担当課または当財団事務局まで、募集要項をご請求ください。また、当財団のウェブサイトからもダウンロードすることができます。申請受付期間は 2026 年 9 月 1 日（火）～9 月 20 日（日）で、当財団のウェブサイトからアカウントを作成してオンライン上で申請していただきます。
2. 第 1 次申請
 - I. アカウント作成
2027 年度渥美奨学生に応募する方は、当財団のウェブサイトから 2027 年度渥美奨学生申請アカウントを作成してください。アカウント作成には申請者の氏名及び E メールアドレスが必要になります。また、申請者アカウントの本登録手続き時に指導教官の氏名と E メールアドレスも入力が必要となりますので、ご準備のうえ手続きをしてください。

※アカウント作成時の注意点：

- ・アカウント作成に関する通知メールは sender@ss.aisf.or.jp から送信されます。
sender@ss.aisf.or.jp から送信されるメールを受信できるようにしておいてください。また、自動的に迷惑メールフォルダに分類されてしまう場合がありますので、メールが届かないときは迷惑メールフォルダもご確認ください。
- ・アカウント作成に使用したメールアドレスは、オンライン申請システムのログイン ID として 2026 年 12 月 31 日まで使用します。本登録後は変更できませんのでご注意ください。

II. 申請書（履歴書含む）の入力

I. で作成したアカウント情報でオンライン申請システムにログインして申請書に必要な事項を入力してください。また、申請者の顔写真（上半身の近影、2MB まで）をアップロードしてください。申請内容は途中で保存することができます。申請受付期間中は「最終確認」→「提出」ボタンをクリックして提出を完了するまでは何度でも内容を編集することができます。

申請書の登録ページの後半部分で履歴書にも必要事項を入力してください。学歴（高校から、学校名と所在都市名を記入）、職歴（勤務地を記入、学業に関連するアルバイトも含む）、取得資格、言語能力、賞罰／奨学金／研究助成金（受給期間と金額も記入）、ボランティア活動（従事した年を付記）について記入してください。資格、賞、奨学金や助成金、ボランティア活動は書類審査においてプラスに評価されます。記入がない場合はその項目には加点されません。

※申請書・履歴書入力の注意点：

- ・お名前が 1 つの方は、システムの便宜上「姓」の欄に入力をお願いします。
- ・英数字は半角で入力してください。
- ・博士論文のタイトルが英文等日本語ではない場合は、必ず日本語訳も入力してください。

III. 添付書類のアップロード

オンライン申請システムより下記の添付書類をアップロードしてください。アップロードできる形式は、在学証明書は PDF または JPEG、PNG のみ、研究の要旨と研究計画書は PDF のみです（各ファイル 5MB まで）。

a. 在学証明書（発行から 6 か月以内のもの）

在学中の大学の在学証明書。海外の大学院より学位を取得する予定の方は、さらに海外の学校の在学証明書も必要です。

b. 研究の要旨（A 4 サイズの紙に Word 等で日本語横書き、600 字以内、1 ページ以内、冒頭に氏名・所属大学名・論文タイトルを明記すること。）

一般の人にわかるように、研究の意義と概要を分かりやすく説明してください。できるだけ図表を挿入してください。ただし、図表をいれても必ず1ページ以内に納めてください。字数やページ数が規定より多い場合は、書類審査において減点となります。

c. 研究計画書（A4サイズの紙にWord等で日本語横書き、図表も含めて4枚以内、冒頭に氏名・所属大学名を明記すること。）

博士論文の研究について①論文タイトル②背景及び予測される成果③内容と方法（論文の章があるとわかりやすい）④進行状況と博士論文提出までのスケジュール⑤研究の今後の展望について書いてください。できるだけ図や表を挿入してください。

※海外から応募する場合には、冒頭に日本への短期留学を希望する理由と、日本での在籍予定（希望）大学名を必ず記入してください。

IV. 発表論文のリストの入力

申請者がこれまでに発表した論文の情報を下記のカテゴリー別に入力してください。

a. 博士論文の研究に関連する論文（10本まで）

博士論文の研究に関係のある論文を10本まで選んで登録してください。博士論文にそのまま掲載はしないが、研究内容としては関連するものはこちらに分類してください。研究の進捗状況と研究の評価を判断する資料とします。

※準備中、査読中、投稿予定、掲載予定など、掲載済みまたは採択済（掲載時期が決まっているもの）以外の論文や口頭発表は登録しないでください。また、プロシーディングス（要旨集）は登録しないでください。

※インパクトファクターは任意項目です。該当する場合は数値を入力してください。

b. 口頭発表（10本まで）

学会や公開レクチャーなどでこれまで行った口頭発表の内、博士論文の研究に関係のあるものを10本まで選んで登録してください。非公開形式（ゼミなど）での発表は除きます。

c. その他：博士論文の研究とは別のテーマだが、アピールしたいもの（5本まで）

博士論文の研究には直接関係はないが、申請に当たって特に知らせたいものを5本まで選んで登録してください。口頭発表可。今後のネットワーク形成について判断する資料とします。

※口頭発表を登録する場合は、下記の通り項目を読み替えて登録してください。

「論文タイトル」：発表タイトル

「著者・編者」：発表者名

「掲載誌」：発表した学会等の名称

「掲載年月日」「掲載巻数・号数」「掲載ページ」：入力必須項目のため、「該当なし」と入力

「自由記述欄」：口頭発表であることを記載してください。

V. 評価項目表の入力（指導教官に入力を依頼してください。）

申請者が 2027 年度渥美奨学生応募アカウントを作成すると、アカウントの本登録手続き時に登録した指導教官のメールアドレスに指導教官用のアカウント仮登録メールが送信されます。指導教官に指導教官用アカウントを本登録して、評価項目表に必要事項を入力していただくよう依頼してください。評価項目表は日本語と英語で表記されています。評価項目表の登録受付期間は、申請受付期間（2026 年 9 月 1 日（火）～9 月 20 日（日））と同じです。指導教官がどうしてもオンライン操作が難しい場合は渥美財団事務局(atsumifoundation@aisf.or.jp)までご連絡ください。

（５）選考の日程

1. 第 1 次選考：オンライン申請システムにより提出された書類をもとに、事務局にて審査します。

* 第 1 次選考の結果は、10 月 16 日（金）からオンライン申請システムにログインして確認できます。
また、合格者には E メールでも通知しますので、受け取ったら必ず返信してください。

2. 第 2 次選考：第 1 次選考合格者（約 40 名）は予備面接を行います。面接の参考にするために、下記の通り追加書類の提出をお願いします。書類はオンライン申請システムから提出してください。追加書類の受付期間は 2026 年 10 月 16 日（金）～10 月 27 日（火）です。受付期間以外は提出できません。アップロードできる形式は PDF のみです（各ファイル 5MB まで）。

- 1 追加書類 1：自己紹介文（日本語で 1300 字以内。氏名・所属大学名を冒頭に明記すること。留学生は日本留学を決めた理由と博士号取得後の計画、日本人学生は国際交流への関心、博士課程進学を決めた理由と博士号取得後の計画を必ず記入。）
- 2 追加書類 2：指導教官にオンライン申請システムから推薦書を提出していただくよう依頼してください。受付期間は 2026 年 10 月 16 日（金）～10 月 27 日（火）です。先生のご都合によっては、事前に推薦書をお願いしておいてください。推薦書は日本語でお願いします。英語あるいはその他の言語の場合は日本語訳を添付していただいてください。日本語訳がない場合は、事務局にて AI 翻訳を添付して選考資料とすることを予めご了承ください。
- 3 予備面接は、10 月 30 日（金）から 11 月 1 日（日）及び 11 月 3 日（火）の 4 日間に、アルカディア市ヶ谷（東京都千代田区市ヶ谷）にて、日本語でひとり 30 分程度行います。予備面接の日時は、第 1 次選考の合格通知と一緒に E メールにてお知らせします。面談日時の変更を希望される場合はお早めにお問い合わせください。関東地方または近畿地方に在住の方には予備面接のための交通費を支給します。応募時に関東地方または近畿地方以外

(海外も含む)に在住の方は上記に準じて交通費を支給するため全額支給とはならない場合があります。止むをえない事情がある場合は Zoom による予備面接も可能です。

*第2次選考の結果は、11月13日(金)からオンライン申請システムにログインして確認することができます。また合格者にはEメールでも通知しますので、受け取ったら必ず返信してください。

3. 最終選考：提出された書類と面接をもとに、選考委員会にて審査されます。

最終面接は12月5日(土)にアルカディア市ヶ谷(東京都千代田区市ヶ谷)にて、選考委員によって日本語で行われます。関東地方または近畿地方に在住の方には最終面接のための交通費を支給します。応募時に関東地方または近畿地方以外(海外も含む)に在住の方は上記に準じて交通費を支給するため全額支給とはならない場合があります。やむを得ない事情がある場合は Zoom による面接も可能です。最終面接の時間変更はお受けできません。

*最終選考の結果は、12月18日(金)までに、最終面接をした候補者全員にEメールで通知します。またオンライン申請システムにログインして確認することもできます。

(6) 選考の方針

a. 渥美財団は、奨学生の皆さんに、国籍や学術分野が異なる人との出会いの場、自分の専門以外のことを話し合う場を提供しています。毎月の例会によって緊密なコミュニケーションをとりながら奨学支援を行います。奨学期間が終わった後も、母国にもどられた後も連絡を取り合い、ゆくゆくは世界的な規模の人的ネットワークを築けたら素晴らしいと思っています。そのため、当財団は、学問的に非常に優秀だけでなく、社会問題や国際交流に関心のある方を優先します。

b. 渥美財団のネットワークは、どんなにささやかであっても世界の調和ある発展のために役立たせたいと考えています。そのため、博士論文の研究内容が人類や社会、あるいは自然との「調和ある発展」へ貢献する可能性が大きいと考えられるものを優先します。

c. 奨学生の専攻分野と国籍については、なるべくバランスをとりたいと考えています。そのため、応募数の多い中国と日本出身の方は相対的に不利になる場合もあることを予めご了承ください。

d. 当財団の支給期間は1年間です。継続は認められません。そのため、奨学金支給期間に博士号を取得できる見込みのない方は適さないと考えます。2028年3月(秋入学者は2028年9月)までに博士号取得の見込みがない方は、次年度以後に応募してください。

年度内に博士号を取得した場合は、直近の3月か9月までは奨学金を支給します。

（７）個人情報の管理について

渥美財団は、個人情報を法令に従って安全かつ適切に取扱います。申込書類にご記入いただく個人情報は選考の目的にのみ使用します。ただし、合格者については、申込書類を財団にて保管し、ネットワーク事業の基本情報として活用します。不合格者の申込書類は、一定の年数財団で保管した後廃棄処分します。

尚、合格者リストは応募者の所属する大学や渥美財団関係者他、いくつかの民間奨学財団と（公財）助成財団センター（助成金受給者データベースをインターネットで公開中）にも送付しますので、予めご了承ください。また、渥美奨学生全員の氏名、出身国、在籍大学、研究分野を掲載した奨学生リストが渥美財団の年報とホームページで公開されます。

募集要項とオンライン申請システムはウェブサイトからアクセスできます

<http://www.aisf.or.jp/jp/>

お問合せ：渥美国際交流財団事務局 〒112-0014 東京都文京区関口 3-5-8

Tel: 03-3943-7612 Fax: 03-3943-1512 E-mail: atsumifoundation@aisf.or.jp